水稲施肥設計

［早期栽培］　コシヒカリ、あきたこまち

項目 肥料名	基　肥	中間追肥 出穂４０日前	穂　肥 出穂１６～２０日前	成　分 N（ｋｇ）	P（ｋｇ）	K（ｋｇ）	備　考
堆　肥　（　稲　ワ　ラ　）	４００ｋｇ						・野菜後は基肥を減肥する。 ・穂肥は生育状況により施肥量を加減する。 ・あきたこまちの場合は、基肥を３０ｋｇ施用するとよい。
美　　土　　里	５４ｋｇ				１．１		
化　成　４　４　４	２０ｋｇ			２．８	２．８	２．８	
Ｐ　Ｋ　ミ　ッ　ク　ス		２０ｋｇ			２．０	２．０	
化　成　４　４　４			２０ｋｇ	２．８	２．８	２．８	
計				５．６	８．７	７．６	

［普通期栽培］　一般化成肥料栽培　　ヒノヒカリ、にこまる、ひめの凜、きぬむすめ、松山三井

項目 肥料名	基　肥	中間追肥 出穂４０日前	穂　肥 出穂１６～２０日前	成　分 N（ｋｇ）	P（ｋｇ）	K（ｋｇ）	備　考
堆　肥　（　稲　ワ　ラ　）	４００ｋｇ						・稲ワラは、早めにすき込み石灰窒素（２０ｋｇ／１０ａ）を施用する。 ・野菜後は基肥、穂肥を減肥する。 ・初期生育を抑え、登熟を高めるため多肥栽培しない。
美　　土　　里	５４ｋｇ				１．１		
化　成　４　４　４	３０ｋｇ			４．２	４．２	４．２	
Ｐ　Ｋ　ミ　ッ　ク　ス		２０ｋｇ			２．０	２．０	
化　成　４　４　４			３０ｋｇ	４．２	４．２	４．２	
計				８．４	１１．５	１０．４	

［普通期栽培］　品質向上タイプ　（乳白粒軽減等の高温対策には、このタイプがおすすめです。）

項目／肥料名	基　肥	中間追肥	穂　肥	成　分			備　考
		出穂４０日前	出穂２５日前	N（ｋｇ）	P（ｋｇ）	K（ｋｇ）	
堆　肥　（稲ワラ）	４００ｋｇ						・稲ワラは、早めにすき込み石灰窒素（２０ｋｇ／１０ａ）を施用する。 ・野菜後は基肥、穂肥を減肥する。 ・初期生育を抑え、登熟を高めるため多肥栽培しない。
美　土　里	５４ｋｇ				１．１		
化　成　４　４　４	３０ｋｇ			４．２	４．２	４．２	
Ｐ　Ｋ　ミ　ッ　ク　ス		２０ｋｇ			２．０	２．０	
みのりアップＶ８３０			２５ｋｇ	４．５	０．７	２．５	
計				８．７	８.０	８．７	

・みのりアップＶ８３０には樹脂被覆肥料が配合されています。成分溶出後の殻が圃場外へ流出しないよう留意する。

・みのりアップＶ８３０（緩効性穂肥）を使用すると、穂肥がゆっくり効き実入りのよい稲になります。

［普通期栽培］　減化学肥料栽培　ヒノヒカリ、にこまる、ひめの凜、きぬむすめ、松山三井

項目／肥料名	基　肥	中間追肥	穂　肥	成　分			備　考
		出穂４０日前	出穂１６～２０日前	N（ｋｇ）	P（ｋｇ）	K（ｋｇ）	
堆　肥　（稲ワラ）	４００ｋｇ						・稲ワラは、早めにすき込み石灰窒素（２０ｋｇ／１０ａ）を施用する。 ・野菜後は基肥、穂肥を減肥する。 ・にこまる、きぬむすめの場合は、穂肥３５ｋｇ施用するとよい。
美　土　里	５４ｋｇ				１．１		
エコ有機粒状２７８	３０ｋｇ			３．６	２．１	２．４	
Ｐ　Ｋ　ミ　ッ　ク　ス		２０ｋｇ			２．０	２．０	
エコ有機粒状２７８			３０ｋｇ	３．６	２．１	２．４	
計				７．２	７．３	６．８	

［基肥一発肥料栽培］

区分	肥料名	品種別施肥設計					備考
		コシヒカリ	あきたこまち	ヒノヒカリ ひめの凜	にこまる きぬむすめ	松山三井	
早期栽培	Ｊ　コ　ー　ト　特　２　号	３０ｋｇ	３５ｋｇ	―	―	―	・野菜後は使用しない。 ・土壌改良材(美土里)・中間追肥(ＰＫミックス)は、一般栽培に準じて使用し、均一に施用する。
普通期栽培	中　生　一　発　Ｊ	―	―	４０ｋｇ	４５ｋｇ	３５ｋｇ	

Ｊコートには、樹脂被覆肥料が配合されています。成分溶出後の殻が圃場外へ流出しないよう留意する。

※　水田からの温室効果ガス排出低減のため「秋耕」を行い、環境負荷低減米穀に取り組みましょう。

※　里芋・山の芋栽培後の栽培については倒伏の恐れがありますので、基肥の施用量を控え、

生育の様子を見ながら追肥・穂肥で調整して下さい。

水稲新品種「にじのきらめき」

写真：農研機構

【特徴】

〇コシヒカリ熟期の良食味多収品種である。

〇止葉が長く高温耐暑性にすぐれ、玄米品質が安定している。

〇短稈で耐倒伏性が強い。

【注意点】

〇分けつが多く過繁茂になり紋枯病が発生するため、箱施用剤は必ず行うこと。

〇出穂期までの葉色をＳＰＡＤ値で４０をキープすること。

【施肥基準：早期・短期】

区分	肥料名	基　肥	中間追肥	穂　　肥		成　分		
			出穂４０日前	出穂３０～２５日前	出穂１５日前	N（ｋｇ）	P（ｋｇ）	K（ｋｇ）
一般化成栽培	美　土　里	５４ｋｇ					１．１	
	ＰＫミックス		２０ｋｇ				２．０	２．０
	化成４４４	４０ｋｇ		２０ｋｇ	１５ｋｇ	１０．５	１０．５	１０．５
基肥一発栽培	Ｊコートにじ一発４８０	４５ｋｇ				１０．８	3.6	4.5

Ｊコートには、樹脂被覆肥料が配合されています。成分溶出後の殻が圃場外へ流出しないよう留意する。

基肥一発栽培は、土壌改良材(美土里)・中間追肥(ＰＫミックス)は、一般化成栽培に準じて使用し、均一に施用する。

〇里芋・山の芋など野菜後の一般化成肥料は、元肥を３割減肥し、穂肥は基準通り施用する。基肥一発肥料は、元肥を３割減肥し、出穂２５日前の葉色がＳＰＡＤ値で４０を下回るようなら、化成４４４を２０ｋｇ施用する。

〇この品種は、施肥量を減らすと収量・品質の低下につながる。

早 期 水 稲 病 害 虫 防 除 指 針

品　種　　コシヒカリ・あきたこまち・にじのきらめき

防除時期	病　害　虫　名	農　　薬　　名	希釈倍数 使用量	使用時期	使用 回数
田植当日 (箱施用)	いもち病・紋枯病・稲こうじ イネミズゾウムシ・ツマグロヨコバイ イネドロオイムシ・イネツトムシ ウンカ類・コブノメイガ	サ ン エ ー ス 箱 粒 剤	５０ｇ／１箱	移植３日前～移植当日	１回
出穂期前	紋枯病	バ リ ダ シ ン 液 剤 ５	１，０００倍	収穫１４日前まで	５回以内
穂揃期～傾穂期	カメムシ類 （ウンカ類・ツマグロヨコバイにも有効）	ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤	２，０００倍	収穫７日前まで	３回以内
		ス　タ　ー　ク　ル　粒　剤	３kg	収穫７日前まで	３回以内

※　スタークル顆粒水溶剤・・・ウンカ類に対する本田防除では、散布ムラがないように生息する**イネの株元まで**薬剤を到達させ、適期に処理する。
※　スタークル粒剤・・・・・穂揃期に使用すること。（湛水状態で田面均一に散布、散布後２～３日は湛水状態を維持）
※　にじのきらめきは、分けつが多く過繁茂になり紋枯れ病が発生するため、箱剤粒剤、バリダシン液剤５の防除を徹底すること。

雑 草 防 除（一発剤）

農　薬　名	使　用　時　期	反当使用量	使用 回数	使用上の留意点
エンペラージャンボ	（移植直後～ノビエ３葉期） ただし移植後３０日まで	２５ｇパック１０個 （小包装投込み）	１回	**・畦畔はしっかりつくり、漏水がないようする。** **・代かき、整地は丁寧に行い、田面は均平にする。** ・軟弱苗、浅植、極端な漏水田では使用しない。 （特に里芋には薬害注意） **・難防除雑草多発田では有効な中後期剤との体系処理を行なう。** ・早めの処理を行なう事により藻類の発生を抑える効果がある（発生前処理）。 ・薬剤処理後の補植は行なわない。 ・田植同時散布後は、直ちに適正水深（3～5cm）まで入水する。 **・散布後３～４日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにして下さい。散布後７日間は落水、かけ流しはしないようにして下さい。** **・藻類の発生が多い場合は、薬剤の拡散が妨げられるのでジャンボ・フロアブル・豆つぶ剤は注意する。**
ジェイフレンドフロアブル	（移植後５日～ ノビエ３葉期） ただし移植後３０日まで	５００ml （原液散布）	１回	
カチボシ１キロ粒剤 51	（移植時・移植直後～ ノビエ２．５葉期） ただし移植後３０日まで	１kg	１回	
天 空 １ キ ロ 粒 剤	（移植時・移植直後～ ノビエ３葉期） ただし移植後３０日まで	１kg	１回	
ラ オ ウ １ キ ロ 粒 剤	（移植時・移植直後～ ノビエ２．５葉期） ただし移植後３０日まで	１kg	１回	
エンペラー豆つぶ 250	（移植直後～ノビエ３葉期） ただし移植後６０日まで	２５０ｇ	１回	

難防除雑草の体系処理

※難防除雑草については、１回の防除で除去は難しいので、体系による処理が必要です。
※中後期剤については、一発剤を使用し、雑草の状況を見てから移植後１４日～２５日頃までに使用して下さい。

使　用　時　期	移植時・移植直後～ ノビエ２．５葉期 （ただし移植後３０日まで）	**移植後１４日～ノビエ４葉期 （ただし収穫６０日前まで）**	**移植後１５日～ノビエ６葉期 （ただし収穫５０日前まで）**	刈り取り後 （耕起２０～１０日前まで）
除　草　剤　名	カチボシ１キロ粒剤 51 （一発剤）	**レブラス１キロ粒剤 （中後期剤）**	**トドメバス MF 液剤（※1） （中後期剤）**	サンフーロン 又は ラウンドアップマックスロード（※2）
１０ａ当り使用量	１kg	**１kg**	**１０００mℓ （１００ℓ）**	５００mℓ （１００ℓ）
使　用　回　数	１回	**１回**	**２回以内**	１回

※1 散布前は落水し、雑草が田面から露出した状態で散布する。**キシュウスズメノヒエ・アゼガヤ・コウキヤガラ**などにも登録あり。
※2 ラウンドアップマックスロードは、刈り取り後（耕起前まで）に、多年生雑草対策として、薬量 1,000mℓ（水 50L）使用回数１回の登録がある。
　　ただし、サンフーロン、ラウンドアップマックスロードの使用はどちらか１回である。

倒 伏 軽 減 剤

農　薬　名	使用時期	使用回数	１０ａ当り使用量	使用上の留意点
ビビフルフロアブル	出穂１０～２日前 ＊使用時期厳守	１回	使用量…７５～１００mℓ 散布量…５０～１５０ℓ	湛水条件で散布する。ムラのないよう均一散布する。 多量散布や重複散布は絶対に行なわない。

・倒伏対策は、適切な水管理と穂肥の適正施用が大原則。倒伏防止に努めましょう！

普 通 期 水 稲 病 害 虫 防 除 指 針

品　種　　ヒノヒカリ・にこまる・きぬむすめ・ひめの凜・松山三井

防除時期	病　害　虫　名	農　　薬　　名	希釈倍数 使用量	使用時期	使用回数
田植当日 (箱施用)	いもち病・紋枯病・稲こうじ・ウンカ類 イネミズゾウムシ・ツマグロヨコバイ イネドロオイムシイネツトムシ・コブノメイガ	サ　ン　エ　ー　ス　箱　粒　剤	５０ｇ／１箱	移植３日前～移植当日	１回
８月中旬～ ８月下旬 (出穂期前)	カメムシ類・ツマグロヨコバイ コブノメイガ・ニカメイチュウ イネツトムシ・ウンカ類 紋枯病・もみ枯細菌病・いもち病	**スタークル顆粒水溶剤** ＋ **パダンＳＧ水溶剤** ＋ **ダブルカットバリダＦＬ**	２，０００倍 １，５００倍 １，０００倍	収穫７日前まで 収穫２１日前まで 穂揃期まで	３回以内 ６回以内 ２回以内
		粉剤　ワイドナーエス粉剤ＤＬ	３～４ｋｇ	収穫１４日前まで	２回以内
８月下旬～ (穂揃期～傾穂期)	カメムシ類 (ウンカ類・ツマグロヨコバイにも有効)	ス　タ　ー　ク　ル　顆　粒　水　溶　剤	２，０００倍	収穫７日前まで	３回以内

※　出穂期前防除は発病状況に応じた薬剤の組み合わせで散布をお願いします。(組み合わせの相談は、各経済センター営農指導員にご相談下さい。)

※　スタークル顆粒水溶剤・・・ウンカ類に対する本田防除では、散布ムラがないように生息するイネの株元まで薬剤を到達させ、適期に処理する。

※　稲こうじ病は、前年度多発した圃場では、菌密度が高いため再発の可能性があります。防除時期は、出穂２０～１５日前に**ドイツボルドーAを２，０００倍**(出穂１０日前まで)で散布する。(混用不可)なお、出穂１０日前以後の散布は避けてください。(予防散布・薬害回避のため)

粒剤防除体系　(一発剤)

防除時期	病　害　虫　名	農　　薬　　名	希釈倍数 使用量	使用時期	使用回数
田植当日 (箱施用)	いもち病・紋枯病・稲こうじ・ウンカ類 イネミズゾウムシ・ツマグロヨコバイ イネドロオイムシイネツトムシ・コブノメイガ	サ　ン　エ　ー　ス　箱　粒　剤	５０ｇ／１箱	移植３日前～移植当日	１回
８月上旬～ ８月中旬 (出穂期前)	ウンカ類幼虫・コブノメイガ ニカメイチュウ・イネツトムシ	ア　プ　ロ　ー　ド　パ　ダ　ン　粒　剤	３～４ｋｇ	収穫３０日前まで	４回以内
	いもち病・紋枯病・稲こうじ	フ　ジ　ワ　ン　モ　ン　カ　ッ　ト　粒　剤	３ｋｇ	出穂３０～１０日前 但し、収穫３０日前まで	２回以内
８月下旬 (穂揃期)	カメムシ類・ニカメイチュウ ウンカ類・ツマグロヨコバイ	ス　タ　ー　ク　ル　粒　剤	３ｋｇ	収穫７日前まで	３回以内

※　稲こうじ病は、前年度多発した圃場では、菌密度が高いため再発の可能性があります。

防除時期は、出穂３～２週間前に、**モンガリット粒剤を３～４kg/１０a**(収穫４５日前まで／使用回数２回以内)で散布する。

雑 草 防 除

農　薬　名	使　用　時　期	反当使用量	使用回数	使用上の留意点
エンペラージャンボ	(移植直後～ノビエ３葉期) ただし移植後３０日まで	２５ｇパック 10 個 (小包装投込み)	１回	**・畦畔はしっかりつくり、漏水がないようする。** **・代かき、整地は丁寧に行い、田面は均平にする。** ・軟弱苗、浅植、極端な漏水田では使用しない。 (特に里芋には薬害注意) **・難防除雑草多発田では有効な中後期剤との体系処理を行なう。** ・早めの処理を行なう事により藻類の発生を抑える効果がある(発生前処理)。 ・薬剤処理後の補植は行なわない。 **・散布後３～４日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにして下さい。散布後７日間は落水、かけ流しはしないようにして下さい。** **・藻類の発生が多い場合は、薬剤の拡散が妨げられるのでジャンボ・フロアブル・豆つぶ剤は注意する。**
ジェイフレンドフロアブル	(移植後５日～ノビエ３葉期) ただし移植後３０日まで	５００ml (原液散布)	１回	
カチボシ１キロ粒剤 51	(移植時・移植直後～ノビエ２．５葉期) ただし移植後３０日まで	1kg	１回	
天 空 １ キ ロ 粒 剤	(移植時・移植直後～ノビエ３葉期) ただし移植後３０日まで	1kg	１回	
ラ オ ウ １ キ ロ 粒 剤	(移植時・移植直後～ノビエ２．５葉期) ただし移植後３０日まで	1kg	１回	
エンペラー豆つぶ 250	(移植直後～ノビエ３葉期) ただし移植後６０日まで	２５０g	１回	

難防除雑草の体系処理

難防除雑草については、１回の防除で除去は難しいので、体系による処理が必要です。
中後期剤については、一発剤を使用し、雑草の状況を見てから移植後１４日～２５日頃までに使用して下さい。

使　用　時　期	移植時・移植直後～ノビエ２．５葉期 (ただし移植後３０日まで)	**移植後１４日～ノビエ４葉期 (ただし収穫６０日前まで)**	**移植後１５日～ノビエ６葉期 (ただし収穫５０日前まで)**	刈り取り後 (耕起２０～１０日前まで)
除　草　剤　名	カチボシ１キロ粒剤 51 (一発剤)	**レブラス１キロ粒剤 (中後期剤)**	**トドメバスMF 液剤(※1) (中後期剤)**	サンフーロン又は ラウンドアップマックスロード(※2)
１０ａ当り使用量	1kg	**1kg**	**１０００mℓ(１００ℓ)**	５００mℓ　(１００ℓ)
使　用　回　数	１回	**１回**	**２回以内**	１回

※1 散布前は落水し、雑草が田面から露出した状態で散布する。**キシュウスズメノヒエ・アゼガヤ・コウキヤガラ**などにも登録あり。

※2 ラウンドアップマックスロードは、刈り取り後(耕起前まで)に、多年生雑草対策として、薬量 1,000mℓ(水 50L)使用回数１回の登録がある。ただし、サンフーロン、ラウンドアップマックスロードの使用はどちらか１回である。

☆ 倒 伏 軽 減 剤

・倒伏対策は、適切な水管理と穂肥の適正施用が大原則。倒伏防止に努めましょう！

農　薬　名	使用時期	使用回数	１０a 当り使用量	使用上の留意点
ビ ビ フ ル フ ロ ア ブ ル	出穂１０～２日前 ＊使用時期厳守	１回	使用量…７５～１００mℓ 散布量…５０～１５０ℓ	湛水条件で散布する。ムラのないよう均一散布する。 多量散布や重複散布は絶対に行なわない。

水稲の高温対策（新たな３つの技術対策ポイント）

【要因】

登熟期に１日の平均気温が２６℃以上で高温障害が発生し始め、品質（玄米の白濁、胴割粒やクサビ米の発生）や玄米１粒重が低下します。温暖化から沸騰化時代に対して従来からの基本技術の徹底と併せ、次の３つの技術で収量や品質の向上を目指しましょう。

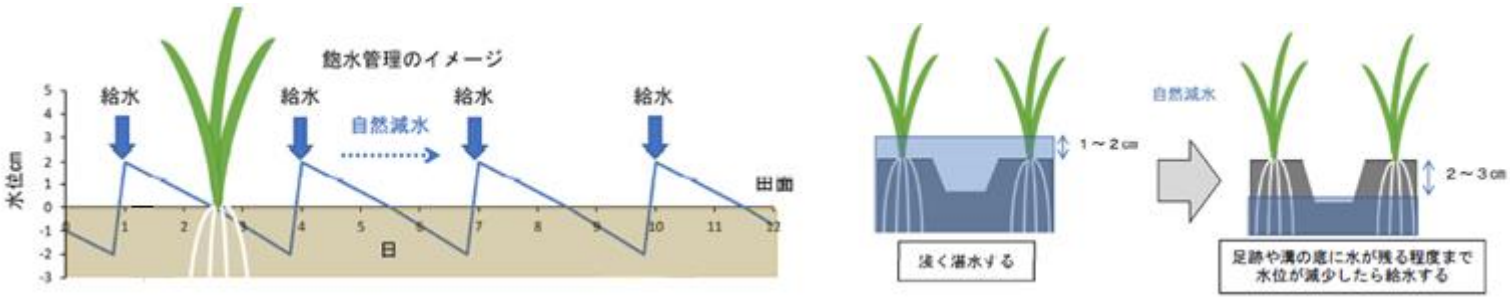
【対策】

１．登熟期に高温が予想される場合は、<u>出穂の３日前に追加穂肥</u>を実施しましょう。（施用はドローンや液肥の利用を）

コシヒカリ・ひめの凜　→　出穂３日前　窒素１kg/１０ａ（化成４４４で７kg）
その他の品種　→　出穂３日前　窒素２kg/１０ａ（化成４４４で１４kg）

（食味の面からタンパク質含有率を低くするため過度に窒素肥料を抑えてきました。これでは、暑さに稲自体が負けてしまいます。穂肥不足や地力が低い地域では、適正に穂肥を施用するとともに、高温が予想される場合は確実に追加穂肥を実施しましょう。）

２．中干し以降は、<u>ヒタヒタの水管理（飽水管理）</u>で地温上昇と根腐れを防ぎましょう。
暑い時期の圃場の用水は高温になっています。用水がふんだんに利用出来る圃場は、かけ流しを実施してください。
それ以外では、水を溜めるより浅く給水して足跡や溝の底に水が残る程度まで減水したら給水する「飽水管理」をしましょう。



（図は、新潟県「異常気象に負けないリスク軽減対策」資料より引用）

３．<u>ケイ酸資材で土づくり</u>をしましょう。
ケイ酸は、高温時に乳白粒や着色粒が軽減する効果があります。もみ殻等の積極的な施用と稲わらの秋すき込み、堆肥や土づくり資材の投入によって地力を増強しましょう。

スクミリンゴガイの防除ポイント

スクミリンゴガイ
（成貝は３０㎜以上で、寿命は２～３年）

雌成貝は、年間２０～３０回産卵する。
１卵塊当たりの卵粒数は、８０～５００個程度

被害（食害）の時期　⇒　<u>田植え直後から３週間くらい</u>まで食害による被害が著しい（特に普通期水稲）。

◎ 耕種的防除（具体的な対策）

<u>収穫後から田植え前</u>

○ 厳冬期（休閑期）に耕起して、越冬貝の密度を下げる。
○ 畑作物などへの作付転換を行うと密度低下につながる。
○ 冬期間には、用（排）水路はできるだけ落水して寒波にさらす。
○ 用（排）水路からの発生を抑制するため、雑草除去や泥土上げを冬期間に組織的に実施する。
○ 取水口（水口）に金網やビニルネットなどを張り、用水路からの貝の侵入と用水路への拡散を防ぐ。
○ 発生水田からの土壌の移動は、新たな発生源となるので注意する。

<u>田植え後</u>

○ 卵塊を水面下に払い落として死滅させる。（但し、孵化期が近い卵塊（灰白色化）は、卵が水中に落下しても死なないので注意する。）
○ 貝が侵入している水田では、田植え後１㎝程度の浅水管理にする。（田植え後２０日間程度）
○ 水田に貝が多い場合には、捕殺して密度低下をはかる。

◎ 薬剤防除

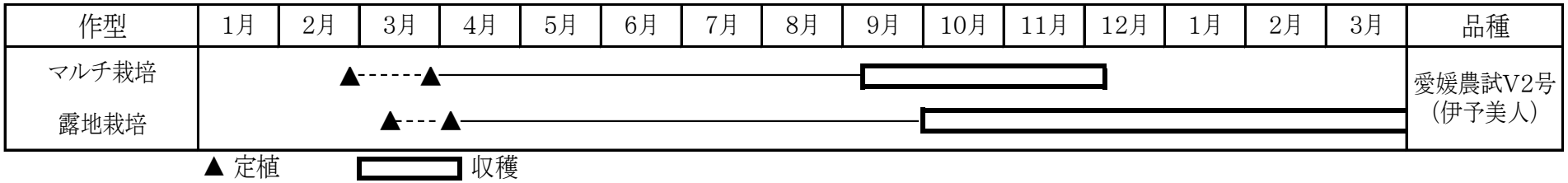
施　用　時　期	薬　剤　名	１０a当たり施用量	備　　考
収穫後または田植前（水温１５℃以上）	石灰窒素	２０～３０ｋｇ	散布時には、周辺作物への飛散に注意する。
移植後（発生時）	スクミンベイト３	２～４ｋｇ	処理後は、水を止めて浅水（３～４㎝程度）で３～４日保つ。

≪石灰窒素の使い方≫

①　水稲刈取り後、又は、田植え前に防除対象水田を３～４ｃｍ湛水し、貝が活動するまで放置する。（貝は、水温１５℃以上で概ね３～４日で活動する）
②　貝が水中で活動を始めたら石灰窒素を２０～３０ｋｇ／１０ａ散布し、３～４日放置して、殺貝する。
　※ 田植え前に石灰窒素で防除した場合は、基肥（窒素分）を減らす。

里芋施肥設計

１．栽培概要



※　土づくりについて、年内に完熟堆肥の投入を終了し、深耕して３月に始まる定植まで十分土壌になじませておくことがポイントです。
※　上記の堆肥の施用が少ない場合は、「アヅミン」４０kg を植え付け前までに施用すると良い。
※　品質向上・増収のため、「亜燐酸粒状１号」１０ｋｇを基肥に施用すると良い。

２．施肥設計

（１）マルチ栽培

化成体系　　（Ｎ－Ｐ－Ｋ　28.2：40.6：34.6）

施肥時期 / 肥料名	全量 kg	基肥 kg	追肥 kg			
			５月下～６月上	７月下	８月中	８月下
完熟堆肥	２，０００	２，０００				
苦土石灰（消石灰）又はサンライム	１００～２００	１００～２００				
苦土重焼燐	４０	４０				
けい酸加里	４０	４０				
スーパーＩＢＳ２２２	４０	４０				
ＭＢ粒状固形	８０		８０			
化成４４４	１１０			４０	４０	３０
又は　あおぞら化成	６０			２０	２０	２０

（２）露地栽培

長期緩効性肥料体系　　（Ｎ－Ｐ－Ｋ　28.2：31.4：26.6）

施肥時期／肥料名	全　量 ｋｇ	基　肥 ｋｇ	追肥　ｋｇ	
			６月中～下	８月下旬
完　熟　堆　肥	２，０００	２，０００		
苦土石灰（消石灰）又はサンライム	１００～２００	１００～２００		
苦　土　重　焼　燐	４０	４０		
け　い　酸　加　里	４０	４０		
里芋用元肥一発ＳＲコート０１２	１２０	１２０		
菌　根　甘	４０		４０	
化　成　４　４　４	３０			３０
又はあおぞら化成	２０			２０

化成体系　　（Ｎ－Ｐ－Ｋ　29.0：41.4：35.4）

施肥時期／肥料名	全　量 ｋｇ	基　肥 kg	追　肥　ｋｇ				
			５月上～中	６月中～下	８月上	８月中～下	９月上
完　熟　堆　肥	２，０００	２，０００					
苦土石灰（消石灰）又はサンライム	１００～２００	１００～２００					
苦　土　重　焼　燐	４０	４０					
け　い　酸　加　里	４０	４０					
Ｍ　Ｂ　粒　状　固　形	８０			８０			
化　成　４　４　４	１５０		４０		４０	４０	３０
又はあおぞら化成	６０				２０	２０	２０

里芋全期マルチ栽培施肥設計

1　基本体系

施用時期 / 肥料名	全　量 ｋｇ	基　肥 ｋｇ
完　熟　堆　肥	２，０００	２，０００
苦土石灰（消石灰） 又はサンライム	１００～２００	１００～２００
苦土重焼燐	４０	４０
けい酸加里	４０	４０
里芋用元肥一発 ＳＲコート０１２	１４０	１４０

※　畝立て後、排水対策には十分注意する。　Ｎ―Ｐ－Ｋ　28：29.4：24.8

※　肥料のやり過ぎは、腐敗（軟腐病・乾腐病）が発生しやすいので、適切な施肥量に心がけて下さい。

※　品質向上・増収のため、亜りん酸粒状１号　１０ｋｇを基肥に施用すると良い。

※ 局所施肥の場合、里芋用元肥一発 SR コート０１２は　１２０kg/１０ａとする。

2　有機体系

施用時期 / 肥料名	全　量 ｋｇ	基　肥 ｋｇ
完　熟　堆　肥	２，０００	２，０００
苦土石灰（消石灰） 又はサンライム	１００～２００	１００～２００
苦土重焼燐	４０	４０
けい酸加里	４０	４０
里芋一発有機入り ペレット　ＪＩＮ	２００	２００

※ 有機原料含有率４３％　　Ｎ―Ｐ－Ｋ　28：26：24

3　殻無し肥料

施用時期 / 肥料名	全　量 ｋｇ	基　肥 ｋｇ	追肥 ｋｇ ８月下旬
完　熟　堆　肥	２，０００	２，０００	
苦土石灰（消石灰） 又はサンライム	１００～２００	１００～２００	
ジシアンプラス	１８０	１８０	
あおぞら化成又は化成４４４			２０

※あおぞら化成は水に溶けやすい為、流し込み肥料として使用できます。

Ｎ－Ｐ－Ｋ　31：30.8：29.8

里芋防除指針

１．土壌消毒

使用薬剤	病害虫名	１０ａ当たり使用量	使用時期	使用回数
バスアミド微粒剤	乾腐病、ネグサレセンチュウ	３０kg	植付２１日前まで	１回

※使用については必ずＪＡとご相談下さい。

２．種子消毒

使用薬剤	病害虫名	使用方法及び注意事項
ベンレートＴ水和剤２０	黒斑病 疫病	植付前２０倍で１分浸漬 種芋重量の０．４～０．５％種芋粉衣

３．病害虫防除体系

防除時期	病害虫名	使用薬剤	散布濃度、使用量	使用時期／使用回数	使用上の注意点
植付前	コガネムシ類幼虫	ダイアジノンＳＬゾル	５０倍／１００ℓ／１０ａ	植付前／１回	散布後直ちに耕耘
植付前	アブラムシ類	アドマイヤー１粒剤	４kg／１０ａ	植付時／１回	アブラムシ多発地区では
		又は　アクタラ粒剤５	６kg／１０ａ	植付前／１回	アクタラ粒剤５を使用する
５月下～６月上旬	ハダニ類	コロマイト乳剤	１，０００倍	収穫前日まで／２回以内	初期発生時
６月上旬	コガネムシ類幼虫	オンコル粒剤５	９kg／１０ａ	収穫６０日前まで／１回	露地栽培、おおなかで使用
６月中旬	疫　病	カンパネラ水和剤	１，０００倍	収穫７日前まで／２回以内	予防散布・治療効果あり
	ハダニ類	サンマイトフロアブル	１，０００倍	収穫２１日まで／２回以内	発生時に混用
７月上旬	疫　病	ダイナモ顆粒水和剤	２，０００倍	収穫２１日前まで／３回以内	疫病初発確認後
	ハダニ類	マイトコーネフロアブル	１，０００倍	収穫３日前まで／１回	発生時に混用
７月中～下旬	疫　病	ピシロックフロアブル	１，０００倍	収穫前日まで／３回以内	
	ハスモンヨトウ	マトリックフロアブル	２，０００倍	収穫７日前まで／３回以内	ｼﾞｰﾌｧｲﾝ水和剤との混用は不可
８月上～中旬	疫　病	ダイナモ顆粒水和剤	２，０００倍	収穫２１日前まで／３回以内	
	ハスモンヨトウ、ハダニ	グレーシア乳剤	２，０００倍	収穫７日前まで／２回以内	ジーファイン水和剤との混用不可

８月下旬	疫　病	カンパネラ水和剤	１，０００倍	収穫７日前まで／２回以内	
	ハスモンヨトウ	フェニックス顆粒水和剤	２，０００倍～４，０００倍	収穫前日まで／２回以内	
９月上～中旬	疫　病	ピシロックフロアブル	１，０００倍	収穫前日まで／３回以内	
	ハスモンヨトウ	ブロフレア SC	２，０００倍～４，０００倍	収穫前日まで／３回以内	ジーファイン水和剤との混用不可

☆ 疫病対策として、台風通過後、「ダイナモ顆粒水和剤」２，０００倍又は「ピシロックフロアブル」を１，０００倍で必ず散布する。

☆ 展着剤スカッシュ２，０００倍を混用すると薬液がよく付着し、防除効果が上がります。

☆ まくぴか（１０，０００倍）を使用する場合は倍数を厳守すること。

☆ ダニ発生時は速やかに防除をすること。（初期防除重要）

☆ アブラムシ類の多発時は、アディオン乳剤３，０００倍（７日前／５回）で防除する。

☆ **薬害防止のため、防除は灌水後夕方に行ってください。**

４．除草剤

薬剤名	使用時期	１０ａ当たり使用量	使用回数	使用上の注意
トレファノサイド乳剤	植付後（マルチ前）（但し、植付７日後まで） 全面土壌散布	３００～４００mℓ （１００ℓ）	どちらか １回	・処理前に発生している雑草には効果が劣る ・土壌が乾燥している場合、降雨後に散布するか土壌を適当に湿らせる ・ゴーゴーサン乳剤、粒剤は土上げ後にどちらか１回追加散布可能
トレファノサイド粒剤２．５	植付後（マルチ前）（但し、植付７日後まで） 全面土壌散布	４～６kg		
ゴーゴーサン乳剤３０	植付直後～萌芽前（雑草発生前） 全面土壌散布	２００～４００mℓ （７０～１００ℓ）	どちらか １回	
ゴーゴーサン細粒剤Ｆ	植付直後～萌芽前（雑草発生前） 全面土壌散布	４～６kg		
ロロックス	植付直後 全面土壌散布	１００～２００ｇ （７０～１５０ℓ）	１回	
バスタ液剤	雑草生育期 植付後畦間処理 （収穫３０日前まで）	３００～５００mℓ （１００～１５０ℓ）	３回以内	・茎葉にかからないように散布する ・枯死には日数を要する
プリグロックスＬ	雑草生育期 植付後畦間処理 （収穫前日まで）	６００～１０００mℓ （１００～１５０ℓ）	３回以内	・茎葉にかからないように散布する

山の芋施肥設計

１．栽培概要

☆　土づくりについて　年内に完熟堆肥の投入を終了し、耕起して３月に始まる定植まで十分土壌になじませておくことがポイントです。

☆　堆肥の施用が少ない場合は、「アヅミン」４０kg／１０ａ施用すると良い。

☆　輪作年限が短いほ場では石灰窒素を４０～６０kg 植え付け１４日前までに施用すると連作障害に有効です。

（石灰窒素は肥料となるので基肥、石灰資材は減らす）

２．施肥設計

（１）省力体系

施肥時期 / 肥料名	全量 kｇ	基肥 kｇ	追肥 kｇ 5月上～中	追肥 kｇ 8月上
完熟堆肥	３，０００	１，５００	１，５００	
苦土石灰又はサンライム	１００	１００		
苦土重焼燐	４０	４０		
けい酸加里	６０	６０		
山の芋基肥専用やまじ	１６０	１６０		

Ｎ － Ｐ － Ｋ　44.4 : 30.4 : 34.8

（２）マルチ体系

施肥時期 / 肥料名	全量 kｇ	基肥 kｇ
堆肥	１，５００	１，５００
苦土石灰又はサンライム	１００	１００
苦土重焼燐	４０	４０
けい酸加里	６０	６０
山の芋基肥専用やまじ	１４０	１４０

※　全期マルチ体系用施肥設計

Ｎ － Ｐ － Ｋ　32.2 : 25.2 : 26

（３）有機体系

施肥時期 肥料名	全　量 kg	基　肥 kg	追　肥 kg			
			５月上～中	７月上	７月下	８月上
完熟堆肥	３，０００	１，５００	１，５００			
苦土石灰 又はサンライム	１００	１００				
苦土重焼燐	４０	４０				
けい酸加里	６０	６０				
うま山里粒状０８８	３４０		１４０	１００	１００	
菌根甘	１２０		１２０			

【有機体系について】
※うま山里粒状０８８は、従来の山里配合にかわる有機率５５％の粒状の肥料です。

Ｎ － Ｐ － Ｋ
44.8 : 48.4 : 45.2

（４）一般体系

施肥時期 肥料名	全　量 kg	基　肥 kg	追　肥 kg			
			５月上～中	７月上	７月下	８月上
完熟堆肥	３，０００	１，５００	１，５００			
苦土石灰 又はサンライム	１００	１００				
苦土重焼燐	４０	４０				
けい酸加里	６０	６０				
うま山里粒状０８８	１００		１００			
菌根甘	１２０		１２０			
化成４４４	１２０			６０	６０	
ＭＢ粒状固形	８０					８０

【一般体系について】
※ＭＢ粒状固形の代わりに、えひめ園芸有機２号でもよい。

Ｎ － Ｐ － Ｋ
43.6 : 49.6 : 46.4

山の芋防除指針

１．種子消毒

使用薬剤	病害虫名	使用方法及び注意事項
ベルクートフロアブル	青かび病	植付前２００倍で約１０分間種芋浸漬する
ベンレートＴ水和剤２０		種芋重量の０．３％～０．５％（消石灰と混用して粉衣）

２．病害虫防除体系

防除時期	病害虫名	使用薬剤	散布濃度、使用量	使用時期／使用回数	使用上の注意点
植付前	コガネムシ類幼虫	ダイアジノンＳＬゾル	２５倍／１００ℓ／１０ａ	植付前／１回	全面土壌混和 散布後直ちに耕耘
植付時	ネキリムシ類	フォース粒剤	６kg／１０ａ	植付時／１回	植溝土壌混和
６月	アブラムシ類、ナガイモコガ	アクタラ粒剤５	６kg／１０ａ	萌芽期／１回	株元散布
７月上～中旬	ハスモンヨトウ	グレーシア乳剤	２,０００倍	収穫前日まで／２回以内	
	炭そ病	ダコニール 1000	１,０００倍	収穫３０日前まで／６回以内	
７月下～８月上旬	ハダニ類	コロマイト乳剤	１,０００倍	収穫７日前まで／２回以内	
	炭そ病	ペンコゼブ水和剤	６００倍	収穫２１日前まで／４回以内	
	ハスモンヨトウ、ナガイモコガ	プレバソンフロアブル５	２,０００倍	収穫前日まで／３回以内	
８月中～下旬	ハダニ類	マイトコーネフロアブル	１,０００倍	収穫３日前まで／１回	
	ナガイモコガ	アタブロン乳剤	２,０００倍	収穫７日前まで／３回以内	
	炭そ病	ペンコゼブ水和剤	６００倍	収穫21日前まで／4回以内	
９月上～下旬	ハスモンヨトウ	グレーシア乳剤	２,０００倍	収穫前日まで／２回以内	
	炭そ病	アミスター20 フロアブル	２,０００倍	収穫前日まで／３回以内	

☆　台風、雷雨の後は、アミスター20 フロアブル　２,０００倍（収穫前日まで／３回以内）で防除する。

☆　使用回数を厳守し、ローテーションして防除する。

☆　展着剤スカッシュ２，０００倍又はまくぴか５，０００倍を混用すると薬液がよく付着し、防除効果が上がります。（倍数を厳守）

☆　アブラムシ類の発生時にアクタラ顆粒水溶剤３，０００倍（収穫 7 日前まで／３回以内）で防除する

３．除草剤

薬剤名	使用時期	１０ａ当たり使用量	使用回数	使用上の注意
トレファノサイド乳剤	植付直後～生育初期、畦間に全面土壌表面散布（植付後３０日まで）	２００～３００mℓ （１００ℓ）	どちらか １回	・処理前に発生している草には効果が劣る ・土壌が乾燥している場合、降雨後に散布するか、土壌を適当に湿らせる
トレファノサイド粒剤２．５	植付直後～生育初期、畦間に全面土壌散布（植付後３０日まで）	４～６kg		
ゴーゴーサン乳剤３０	植付後～萌芽前（雑草発生前）に全面土壌散布	２００～４００mℓ （１００ℓ）	１回	
ロロックス	生育期　但し、収穫 60 日前まで 畦間土壌散布	１００～２００ｇ （７０～１５０ℓ）	２回以内	
バスタ液剤	雑草生育期 植付後畦間処理 （収穫３０日前まで）	３００～５００mℓ （１００～１５０ℓ）	３回以内	・茎葉にかからないように散布する ・枯死には日数を要する
プリグロックスＬ	雑草生育期 畦間処理 （但し、収穫３０日前まで）	６００～１０００mℓ （１００～１５０ℓ）	３回以内	・茎葉にかからないように散布する

４．土壌消毒

薬剤名	適用病害虫	１０ａ当たり使用量	使用時期	使用回数
バスアミド微粒剤	褐色腐敗病、根腐病	２０～３０kg	植付２１日前まで	１回

※　使用については必ずＪＡとご相談下さい。

温州みかん防除指針

定　期　防　除

時　期	病　害　虫	薬　　剤	倍数	使用時期 （収穫前）	使用 回数	備　　考
４月中旬	そうか病	デランフロアブル	１，０００倍	３０日前	３回	新梢１cm の頃に防除。皮膚かぶれに注意。 多発園では５～６月にも防除を行なう。
５月中旬 ～下旬	訪花害虫 (コアオハナムグリ、ケシキスイ類) 灰色かび病 そうか病	ダントツ水溶剤 ファンタジスタ顆粒水和剤	４，０００倍 ４，０００倍	前日 １４日前	３回 ３回	８分咲き～満開期に防除する。 小黒点病は、極早生温州での防除を徹底する。 樹勢低下園地では液肥を混用する。
６月中旬 ～下旬	黒点病 ゴマダラカミキリ カイガラムシ類 ミカンハダニ・ミカンサビダニ・ チャノホコリダニ	ペンコゼブ水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 メビウスフロアブル	６００倍 ２，０００倍 ２，０００倍	３０日前 １４日前 ７日前	４回 ３回 ２回	前年サビダニが発生した園では、早めに散布する。
７月中旬 ～下旬	黒点病 ミカンハダニ・ミカンサビダニ	ペンコゼブ水和剤 ダブルフェースフロアブル	６００倍 ２，０００倍	３０日前 前日	４回 １回	
８月下旬	黒点病 ミカンハダニ・ミカンサビダニ カイガラムシ類	ペンコゼブ水和剤 ダニゲッターフロアブル オリオン水和剤４０	６００倍 ２，０００倍 １，０００倍	３０日前 前日 １４日前	４回 １回 ３回	３剤の混用は、静置しておくと沈殿が発生することがあるため、速やかに散布する。
９月上中旬	黒点病	ストロビードライフロアブル	２，０００倍	１４日前	３回	雨の多い時に防除する。
１０月上旬 ～１１月上旬	ハダニ類 貯蔵病害	オマイト水和剤 トップジンM水和剤	７５０倍 ２，０００倍	７日前 前日	２回 ５回	サビダニ発生園では、イオウフロアブル ４００倍を混用する。

１２月下旬 ～３月中旬	ミカンハダニ・カイガラムシ類	マシン油乳剤（95%）	４５倍	冬期	－	休眠期に必ず散布する。 厳寒日の散布を避ける。 １２月～１月に散布できなかった場合は発芽前までに散布し冬期に２度散布しない。

応　急　防　除

時　期	病　害　虫	薬　　剤	倍数	使用時期 （収穫前）	使用 回数	備　　考
６月中旬～ ７月上旬	ゴマダラカミキリムシ	エクシレル SE	５，０００倍	前日	３回	被害が多発する園地で散布する。
7月上中旬	チャノホコリダニ	スターマイトプラスフロアブル	１，０００倍	７日前	１回	
７月～９月 ９月～１０月	エカキムシ （ミカンハモグリガ） カメムシ類	アドマイヤーフロアブル	４，０００倍	１４日前	３回	夏芽の発生～秋枝の伸長停止期にかけては １０日間隔で散布する。
		スタークル顆粒水溶剤	２，０００倍	前日	３回	
		ダントツ水溶剤	４，０００倍	前日	３回	

除　草

薬　剤　名	対象雑草	薬　　量	希　釈　水　量	使用時期	使用回数	備　　考
サンフーロン	１年生雑草	２５０～ ５００mℓ	通常散布　５０～１００ℓ 少量散布　２５～ ５０ℓ	雑草生育期（草丈３０ｃｍ以下） ただし収穫７日前まで	３回	グリホサートを含む除草剤は年間５回以内 少量散布５ℓは、ULV5 ノズル使用
	多年生雑草	５００～１０００mℓ				
ラウンドアップ マックスロード	１年生雑草	２００～１０００mℓ	通常散布　５０～１００ℓ 少量散布　５～５０ℓ	雑草生育期（草丈３０ｃｍ以下） ただし収穫７日前まで	５回	
	多年生雑草	５００～１０００mℓ				
バスタ液剤	１年生雑草	３００～ ５００mℓ	１００～１５０ℓ	雑草生育期（草丈３０ｃｍ以下） ただし収穫２１日前まで	３回	
	多年生雑草	５００～１０００mℓ				

中晩柑防除指針

定　期　防　除

時　期	病　害　虫	薬　　剤	倍数	使用時期 (収穫前)	使用 回数	備　　考
３月中旬 発芽直前	かいよう病	IC ボルドー66D	４０倍	―	―	ICﾎﾞﾙﾄﾞｰは、希釈前によくもみほぐす。 マシン油散布後１４日以上あけて散布する。
５月中旬 (開花始め)	訪花害虫 (コアオハナムグリ、ケシキスイ類) 灰色かび病	ダントツ水溶剤 ファンタジスタ顆粒水和剤	４，０００倍 ４，０００倍	前日 １４日前	３回 ３回	８分咲き～満開期に防除する。 ダントツは、アザミウマ類・アブラムシ類にも有効である。
５月下旬	かいよう病	IC ボルドー66D	８０倍	―	―	落弁直後の防除を徹底する。
６月中旬 ～下旬	黒点病 ゴマダラカミキリ・ カイガラムシ類 ミカンハダニ・ミカンサビダニ・ チャノホコリダニ	ペンコゼブ水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 メビウスフロアブル	６００倍 ２，０００倍 ２，０００倍	９０日前 １４日前 １４日前	４回 ３回 ２回	前年サビダニが発生した園では、早めに散布する。
７月中旬 ～下旬	黒点病 ミカンハダニ・ミカンサビダニ	ペンコゼブ水和剤 ダブルフェースフロアブル	６００倍 ２，０００倍	９０日前 前日	４回 １回	
８月中旬 ～下旬	黒点病 ミカンハダニ・ミカンサビダニ カイガラムシ類	ペンコゼブ水和剤 ダニゲッターフロアブル オリオン水和剤４０	６００倍 ２，０００倍 １０００倍	９０日前 前日 １４日前	４回 １回 ３回	３剤の混用は、静置しておくと沈殿が発生することがあるため、速やかに散布する。
９月下旬～ １０月上旬	黒点病 ミカンハダニ・ミカンサビダニ	ストロビードライフロアブル マイトコーネフロアブル	２，０００倍 １，０００倍	１４日前 ７日前	３回 １回	
１０月下旬 ～ １１月上旬	ハダニ類 貯蔵病害	オマイト水和剤 トップジン M 水和剤	７５０倍 ２，０００倍	１４日前 前日	２回 ５回	

１２月下旬 ～３月中旬	ミカンハダニ カイガラムシ類	マシン油乳剤（95%）	４５倍	冬期	－	休眠期に必ず散布する。散布は果実収穫後とする。

応　急　防　除

時　期	病　害　虫	薬　　剤	倍数	使　用　時　期	回数	備　　考
６月中旬～ ７月上旬	ゴマダラカミキリ	エクシレル SE	５，０００倍	前日	３回	被害が多発する園地で散布する。
６月下旬～ ７月上旬	かいよう病	IC ボルドー66D	２００倍	―	―	
７月～９月 ９月～１０月	エカキムシ (ミカンハモグリガ) カメムシ類	アドマイヤーフロアブル	４，０００倍	１４日前	３回	夏芽の発生～秋枝の伸長停止期にかけては１０日間隔で散布する。
		スタークル顆粒水溶剤	２，０００倍	前日	３回	
		ダントツ水溶剤	４，０００倍	前日	３回	

除　草

薬　剤　名	対象雑草	薬　　量	希　釈　水　量	使用時期	使用回数	備　　考
サンフーロン	１年生雑草	２５０～ ５００mℓ	通常散布　５０～１００ℓ 少量散布　２５～ ５０ℓ	雑草生育期（草丈３０ｃｍ以下） ただし収穫７日前まで	３回	グリホサートを含む除草剤は年間５回以内 少量散布５ℓは、ULV5 ノズル使用
	多年生雑草	５００～１０００mℓ				
ラウンドアップ マックスロード	１年生雑草	２００～１０００mℓ	通常散布　５０～１００ℓ 少量散布　５～５０ℓ	雑草生育期（草丈３０ｃｍ以下） ただし収穫７日前まで	５回	
	多年生雑草	５００～１０００mℓ				
バスタ液剤	１年生雑草	３００～ ５００mℓ	１００～１５０ℓ	雑草生育期（草丈３０ｃｍ以下） ただし収穫２１日前まで	３回	
	多年生雑草	５００～１０００mℓ				

温州みかん・中晩柑施肥設計

（１）温州みかん

一 般 体 系

	施　用　時　期	肥　料　名	10アール当り施肥量　（kg） 早生温州・普通温州	施肥成分量　（kg）		
				N	P	K
土壌改良材	１月～２月	苦土石灰又はサンライム	１００	―	―	―
春　肥	３月上旬	えひめ有機配合１号	１００	１０．０	７．０	７．０
秋　肥	１０月下旬～ １１月上旬まで		８０	8.0	５．６	５．６

省 力 体 系

	施　用　時　期	肥　料　名	10アール当り 施　肥　量　（kg）	施肥成分量　（kg）		
				N	P	K
土壌改良材	１月～２月	苦土石灰又はサンライム	１００	―	―	―
早生温州	３月上旬	みかん一発肥料４７７	８０	１１．２	５．６	５．６
普通温州			１００	１４	7	7
極早生温州	１０月下旬		８０	１１．２	５．６	５．６

（２）中晩柑

一 般 体 系

	施　用　時　期	肥　料　名	１０アール当り 施　肥　量　(kg)	施肥成分量　(kg)		
				N	P	K
土壌改良材	１月～２月	苦土石灰　又は　サンライム	１００	—	—	—
		完熟堆肥 又は　ケイフン	１，０００～１，５００ ５００	—	—	—
春肥	２月下旬	えひめ有機配合１号	１００	１０．０	７．０	７．０
夏肥	７月上旬	苦土・マンガン・ホーソ入り 燐硝安加里Ｓ２８０	７０	８．４	５．６	７．０
初秋肥	９月上旬	えひめ有機配合１号	７０	７．０	４．９	４．９
晩秋肥	１０月下旬～ １１月上旬まで	えひめ有機配合１号	７０	７．０	４．９	４．９

省 力 体 系

	施　用　時　期	肥　料　名	１０アール当り 施　肥　量　(kg)	施肥成分量　(kg)		
				N	P	K
土壌改良材	１月～２月	苦土石灰　又は　サンライム	１００	—	—	—
		完熟堆肥 又は　ケイフン	１，０００～１，５００ ５００	—	—	—
春肥	３月下旬	みかん一発肥料４７７	８０	１１．２	５．６	５．６
秋肥	８月下旬 ～９月上旬		１００	１４	７	７